

けいじばん

- 次回活動日のご案内；07年1月21日（日）主な活動メニューは、午前中は全体活動で、12月伐採木の玉切り・残枝整理。きのこ植菌準備。午後は班活動（栽培きのこ班、木工班、野生きのこ班）携行品：鉋、手鋸、あればチェーンソー（ゴーグル・防振手袋）ヘルメット、スケール（30センチ定規で可）。
- 集合：第一駐車場、9時40分、参加の有無を上記アドレス宛メール又は電話下さい。当日の連絡は携帯090-3809-7907へ。

この冬のキノコ栽培について

《新規植菌》

11月、12月に伐採→1月ホダ木の玉切り→2月植菌の予定で進んでいます。

コナラ、カシに植菌するので、きのこ種については、しいたけ、なめこ、くりたけ、むきたけ、えのきたけ、あらげきくらげ等が候補ですが、種ゴマの入手、栽培の容易さなどを検討のうえ決定します。

1月にきのこ種別駒数算定のため、ホダ木の太さを測定しますので、各自スケール(30センチ定規で可)を持参してください。

《日よけ作成》

広場近くのほだ場の遮光が不十分なため、伐木枝で全面的に覆っていますが、調査収穫に支障があるので日よけを作成します。

1月21日午後から栽培キノコ班、木工班合同で、天幕用の竹を利用して長期間使えて、調査する時の作業性も良い日よけを作ります。参加歓迎です。長村木工班長のノウハウの一端が学べます。

活動のきろく

12月2日（土）晴れ、参加16名 11月の伐採研修の復習で、講習内容をお互いに確認しながら伐採、玉切り。その後国民宿舎清和にて参加12名で忘年会。豊富な話題、人柄がにじみ出る話に夜をふけるのを忘れる。

12月3日（日）晴れ、参加13名 マダケ林にて伐採研修の続き、女性陣はリース作り、ツルかご作り。真剣な表情で取り組み、いつもの饒舌はどこへやら。

12/2～3の作業を振り返って

代表 坂本 彌

今回は、先の伐木研修のおさらいを含めて、伐木造材実習を行った。最初、チェーンソー操作に慣れることを目的に、研修で伐った木の枝払いと玉切りを実施した。伐倒木の各部分への力のかかり方を考え、切断順序を皆で協議しながら、順次枝払いと玉切りを行った。

造材終了後、巨木林（モミ林）でコナラを追加伐木した。必要に応じてチルホールによる牽引、ロープと滑車による人力牽引で伐倒方向をコントロールする実習を行った。（以上2日）。

翌日、マダケ林でコナラ、カシ類等の樹木を伐った。参加者全員チェーンソーでの伐木を体験した。必要な場合の伐倒方向コントロールはロープによる人力牽引とした。受け口を作るのに苦労したケースもあるが、それでも、前日に較べて全体としての能率は相当向上した。

			
力のかかり方を確認 玉切り方法を検討	研修と実践で だいぶ腕が上がった	フェリングレバー（木廻し）の使い方も実践	伐採後の林冠には青空が

伐採マニュアル改定に先立って

安全委員長 長村雅文

12月2日の作業を振り返って、11月の研修内容を復習する意味では非常に有意義な作業でした。しかし、作業の安全性・確実性という観点から見るとまだまだ反省すべき点も多いと思います。その反省点や課題を含め、昨年来の懸案となっている伐採マニュアル全面改訂のプロセスで個々に検討していきたいと思います。そこでまずは伐採作業の前提条件を皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

1、何のために伐採するのか？

作業目的の明確化。目標林形のためなのか、貴重種保護のためなのか、シイタケ栽培のためなのか・・・

安全を云々する前段として作業の目的や使命を明確にすること。またそれらを参加者が十分理解していること。「伐るのか伐らないのか」その判断を他人まかせにしない。

2、チェーンソーを使う必要性はあるのか？

チェーンソーを使えば確かに効率的。しかしそのために研修を受けたり、いろいろなルールを取り決めたり、保険に入ったり・・・本当に効率的なのだろうか？

3、チェーンソーを使う伐採作業は特別な会員だけで

チェーンソーによる伐採作業は他の会員や活動に支障がないように作業エリアを限定したり作業日を別にしてはどうか。全体作業の場合は手鋸や鉋で行う。

以上三点思いつくままに列挙しましたが、皆さんのご意見はどうでしょうか。上記について少し補足しますが、11月19日の研修でも習ったように伐採業者同士の間隔は樹高の2.5倍必要です。豊英島の林分では成長した木の樹高が15メートル前後あるので、40メートル近く離れて作業する必要があります。それを基準にすると巨木林における伐採作業にはチェーンソー一台が適正範囲です。ホテイ岬と平行して行うとしても二台あれば充分です。そこで問題となるのは、たった一台か二台のチェーンソーの為にわざわざマニュアルを作成する必要があるのだろうか？ということです。チェーンソーを使う人はプロと同じような研修を受け、そのマニュアルに従えばよい。ボランティアのマニュアル（ルール）は手鋸などを中心に考えればよいのではないかと

さて皆さんのお考えはどうでしょうか？

伐木作業の感想

村野忠夫

私はチェーンソーを使った伐木にはあまりに機械的で、無感動に多量の樹木を短時間に伐採するため、出来るならばノコギリでこんな下手なやつに切られてたまるか抵抗する樹木と悪戦苦闘しながらも1本を全力で切ってやりたいと常々考えていた。

この2日間の研修で3回ほどチェーンソーを使わしてもらったが力ばかり入り、切り口、伐倒方向も全然ダメ。見た目以上にむずかしいし、技術もいる。やるからには上達してもっときれいに切ってやりたい。

11月の講習と今回で皆が様々な作業に取り組んで、危険を回避するために意見を言い合う、方法を検討することが自然に出来ていたことはよかったと思う。

晩秋の千年の森

鶴沢和男

忘年会をかねての12月の活動日、この時期、森は最高の化粧で迎えてくれました。

落葉樹の間からこぼれる柔らかい秋の日差しの中で、先月のチェーンソー講習会の復習と思える実践的な作業で、緊張の連続ではありましたが昼のきのこ汁に緊張も解け、森を楽しむ余裕が出来ました。

先日の講習会では久々の千葉弁を懐かしく思いながらも、わかりやすく説明を受けることができました。講習会の内容で動けば作業を進める上で安全に作業できることの必要を実感しました。大声での支持にちょっと恥ずかしさが、先日の実践でありましたので気持ちを入れ替えなくてはというのが感想です。

私が晴れの日の光が気持ちいいように、森の葉っぱ一枚も秋の日差しが気持ちいいように伐採した後の周りの木々が生き生きと、気持ちいいように感じました。

又、帰ってからリースを作り知り合いに持って行きましたら私の意外性に非常に喜ばれました。

チェーンソーを貸していただいた坂本さん、手入れをせずすみませんでした。使えばなしを反省しています。有難うございました。



(豊英島ニュース シカ目撃)

12月2日、広葉樹の玉切作業中に、シカ2頭がコナラ林区域で目撃されました。10/13のセンサーカメラで撮影されて依頼です。センサーカメラのストロボに驚き一時的に島に寄りつかなかったのか、発情期のために島から離れていたのかはわかりませんが、来春にかけてその動向に注目したいと思います。

目撃情報等のご協力をお願いします。(シカ班 福島)

楽しかったリース作り

高塚肇子

忘年会が明けて、3日、女性は朝からネイチャーリース作りをした。ヒイラギやモミの葉を千年広場のまわりで集め、葛のつるで作った台に飾り付ける。ネイチャーリースと銘打っているのは、自然の植物以外を使わないからだ。去年は豊英島にふんだんにあったヤブムラサキの実が全く見つからず彩としては少し寂しいが、講師が秋から心がけて集めてくれたというドングリやマツボックリ等の実に、女性陣が持参したサンキライ、トウガラシの赤が加わって何とか形になった。前年は皆夢中で、講師の話も聞こえないほどだったのが、傍らの焚き火で焼芋を作ったり、味噌汁を作りながらの作業。おしゃべりに花が咲く余裕すらあり、それぞれ個性的な作品が出来上がった。リース作りが終わってから臼井さんに藤ヅルで籠の作り方を教えていただく。こうした手作業は女性の得意とするところでまた一段と楽しい活動日になったと思う。



いつも盛り上がる忘年会
これだけ参加の会員も



栽培キノコの調査
なめこの発生に顔がほころぶ



2時間余で完成
オリジナルリース

(豊英島ニュース カゴづくり)

千年の森に新メニュー登場です。会員の臼井さんが、フジやアケビをつかったみごとな籠や植木鉢カバーを披露しました。特に植木鉢カバーは置く場所が難しいほど立派なもの。ただ、島の中のツル類はほとんどがマタタビ、サルナシなど貴重なもので、島内で材料採取するわけにはいかないのが残念です。

栽培キノコの収穫状況

2日の活動の日は、好天気に恵まれ楽しく作業が出来ました。木々の葉っぱは落葉が始まり、冬の柔らかな陽射しが差し込んできます。広場の近くのほだ場にも、直射日光が当るので、前回伐木した木の枝を女性の方々に一杯遮光して頂きました。今回もこのほだ場ではキノコは採れなかったけど、次回の調査で収穫できるのを期待しています。

今回収穫できたキノコは、シイタケが2, 5Kg ナメコが140gでした。

次回の調査は2班の新井様、菅沼様をお願いします。(久我)